



年表 天王寺動物園

これまでのあゆみ



1884（明治 17）大阪府立博物館附属動物檻、設置（現在の中央区本町橋 2 丁目）。

1915（大正 4）1 月 1 日、大阪市立動物園として開園（大人 5 銭、小人 3 銭、4 歳未満無料、飼育動物数：60 種以上 230 点、面積：26,025 m²、年間入園者：約 57 万人）。

1916（大正 5）春に夜桜開園、夏には納涼夜間開園を実施。

1919（大正 8）7 月、東京帝室博物館よりシロクジャク 1 羽を譲り受ける。

1921（大正 10）6 月 21 日、スマトラサイを 23,500 円で購入（日本初）。

1925（大正 14）10 月 24 日、ダチョウの人工ふ化に成功（日本初）。

1926（大正 15）11 月 11 日、アジアゾウの常盤（雌）が来園。

1927（昭和 2）10 月 8 日、チンパンジーの太郎（雄）が来園。

1928（昭和 3）12 月 30 日、31 日を休園日として制定。それまでは無休であった。

1929（昭和 4）3 月 16 日、ウォンバット、ハイロカンガル－来園。

1930（昭和 5）武徳殿付近の公園通路を園内に取り入れる（総面 積 26,670 m²）。

1931（昭和 6）4 月 11 日、マンドリル来園（日本初）。

1932（昭和 7）4 月、第 1 次拡張計画着手。
7 月 23 日、名演技で有名になったチンパンジーのリタ（雌）来園。

1933（昭和 8）6 月 28 日、プチハイエナ初来園。

1934（昭和 9）4 月 1 日、地下道、東側壁に淡水水族館開設。
6 月、島根県隠岐島北西の竹島で、ニホンアシカ始め 16 点の海獣、海鳥を捕獲し展示。
6 月 24 日、チンパンジーのロイド（雄）来園。
チンパンジーのリタの演技が人気を集める。
1932 年から着手した第 1 次拡張工事が終了、この工事でキリン舎、ホッキョクグマ舎、海獣舎完成（総面積 57,270 m²）。
年間有料入園者過去最高 251 万人を記録。

1935（昭和 10）4 月 1 日、開園 20 周年記念動物園まつり開催。
6 月 4 日、シャム国少年団より親善のためアジアゾウのランブル（雌）が贈られる。ゾウ放飼園、カバ舎新設。
天王寺公会堂跡を編入（総面積 60,570 m²）。



1936（昭和 11）6 月 17 日、ニホンアシカ初繁殖。

1937（昭和 12）5 月 29 日、オーストラリア、シドニー市タロンガ動物園と動物交流でウォンバット、アカカンガル－来園。
出征勇士のためにトラの毛を求める人々増える。

1938（昭和 13）3 月 18 日、レッサーパンダ初来園。
4 月 9 日、空襲、大震災事に備えて逃走猛獣捕獲演習実施。
7 月 10 日、時局がら、納涼夜間開園を中止（恒例では 7 月 25 日から 8 月 25 日まで）。
8 月～、動物たちにも節約による愛国運動がおよび、絶食日や代用食を給与することとなる。

1939（昭和 14）輸入統制のため、新しい動物の来園がとどえてくる。

1940（昭和 15）7 月 23 日、チンパンジーのリタ（雌）、死産の後死亡。
7 月 29 日、リタの動物園葬を行う。
8 月 14 日、土木部より教育部に所属変更（教育部動物園）。
8 月～、動物の飼料不足始まる。
11 月～ 12 月、チンパンジーのロイド（雄）の日本名への改名が問題となる。後に勝太と改名。
空襲、大震災事に備えて逃走猛獣捕獲演習を行う。動物にも絶食日や代用食を給与する日が増加。

1941（昭和 16）5 月 20 日、紀元 2,600 年を記念して「動物 2600 年史」発行。
8 月 14 日、教育部より総動員部へ所属変更（総動員部動物園）。

1942（昭和 17）1 月 20 日、燃料、飼料不足のためアジアゾウのランブル（雌）死亡。
3 月 20 日、アジアゾウの常盤（雌）死亡。
6 月 11 日、総動員部より市民局へ所属変更（市民局動物園）。

1943（昭和 18）1 月 23 日、林佐一園長退職、後任、寺内信三園長。
4 月 27 日、阪神パーク閉鎖に伴い、アジアゾウのトム（雌）、カンガル－、サル、ツル等の無償譲渡を受ける。
9 月 1 日、防空演習、動物射殺の演習を実施。
9 月 4 日、ヒゲマ他 3 頭の猛獣を業殺。猛獣類の処分始まる。
園内の空地はサツマイモ、麦畑、菜園となる。

1944（昭和 19）～ 3 月 15 日、前年 9 月から始まった猛獣類の処分でライオン始め 10 種 26 頭を犠牲にする。
9 月 7 日、寺内信三園長応召。
有料入園者は 41 万人と急降下。
食糧不足により、ゾウ、キリンなどが栄養失調のために死亡。入園者が興味を持つ動物たちがどんどん減少していく。



1945（昭和 20）3 月 13 日、大阪大空襲で園内に焼夷弾 2,000 発落下、猛禽舎焼失、オオワシなど 10 種 33 点死亡。出征中の寺内信三園長の後任に筒井嘉隆園長就任。
9 月 15 日、市民局より教育局社会教育課に所属変更（教育局社会教育課動物園）。

1946（昭和 21）2 月 8 日、寺内信三復員に伴い園長に再任。
2 月 15 日、教育局より教育部に所属変更（教育部社会教育課動物園）。

1947（昭和 22）7 月 22 日、教育部より土木局に所属変更（土木局緑地課動物園）。
11 月 1 日、大阪市復興祭動物園子供大会開催。

1949（昭和 24）3 月 3 日、タンチョウ 2 羽（雄、雌）購入。

1950（昭和 25）4 月 14 日、戦後初の外国産動物としてタイからアジアゾウの春子（雌）来園。4 月 15 日、1 日の有料入園者数 6 万人を超える（過去最高）。

1951（昭和 26）5 月 31 日、チンパンジーのシュジー（雌）購入。
10 月 18 日、ライオン、トラ、ヒョウ来園。

1952（昭和 27）3 月 20 日、大阪産業経済新聞社・大阪市共催の講和条約成立記念「婦人と子ども大博覧会」が公園および動物園を中心に開催。
第 2 次拡張工事が行われ武徳殿跡、日本庭園を編入（総面積 83,670 m²）。

1953（昭和 28）5 月 24 日、トラ（3 頭）の繁殖に初めて成功。

1954（昭和 29）4 月、5 ヵ年計画で園内施設改修工事着手。爬虫 類舎および小鳥の家新設。
12 月 4 日、ベイスオリックス来園。

1955（昭和 30）4 月 8 日、ベイスオリックスの繁殖に成功（日本初）。
12 月 28 日、博物館相当施設に指定される。

1956（昭和 31）1 月 11 日、オオアクリク初来園。

1957（昭和 32）3 月、動物慰霊碑除幕式。
4 月 1 日、動物園駐車場開設。

1958（昭和 33）1 月 13 日、ドリル初来園。

1959（昭和 34）7 月 11 日、土木局から公園部に所属変更（公園部動物園）。
11 月、サイ舎新設。

1960（昭和 35）6 月 11 日、セイランの人工ふ化に成功（日本初）。
10 月、ゴリラ舎新設。

1961（昭和 36）4 月 1 日、動物園改造 5 ヵ年計画に着手。
10 月 30 日、ニホンジカ放飼場および水禽放養舎新設。



1962（昭和 37）1 月 27 日、キリン舎、サルアパート完成。
1 月 31 日、寺内信三園長退職。
後任、和田辰巳園長。
3 月 31 日、ベリカン舎、オランウータン舎完成。

1963（昭和 38）8 月 12 日、ライオン・トラ放飼場・寝室完成。
11 月、南園小宝亭を編入（総面積 87,470 m²）。
年間有料入園者戦後最高 169 万人を記録。

1964（昭和 39）5 月 6 日、アミメキリンの初繁殖に成功。
5 月 9 日、シュバシコウの繁殖に成功（日本初）。
7 月 4 日、大阪市立動物園を大阪市天王寺動物園に改称。

1965（昭和 40）7 月 17 日、第 3 次拡張工事で天王寺公園グラウンドを編入（総面積 103,970 m²）。
11 月 1 日、開園 50 周年記念式典・記念祭を開催。動物園月刊誌「なきごえ」創刊。

1966（昭和 41）7 月 26 日、大暑の日、ホッキョクグマに氷柱をプレゼント（以後、恒例となる）。
12 月 12 日、サンフランシスコ動物園よりリカオン来園。

1967（昭和 42）3 月 31 日、ラクダ・カンガル－舎完成。
10 月 20 日、カバ舎完成。

1969（昭和 44）10 月 3 日、オーストラリア政府よりニシクロカンガル－受贈。

1970（昭和 45）5 月 5 日、日本万国博覧会を記念してインド政府よりアジアゾウのラニー博子（雌）受贈。
6 月 24 日、日本万国博覧会を記念してアメリカ政府よりプレーリードッグ受贈。
7 月 9 日、日本万国博覧会を記念してニュージーランド政府よりキーウィ受贈（日本初）。

1971（昭和 46）1 月 1 日、サンパワロ訪日企業視察団よりオニオオハシ受贈。

1972（昭和 47）4 月 1 日、入園料改定で中学生以下無料となる。
4 月 17 日、和田辰巳園長退職、後任、中川道朗園長。

1973（昭和 48）4 月 1 日、サンフランシスコとの姉妹都市提携 15 周年を記念して当園からタヌキ、サンフランシスコ動物園からダマジカ（白変種）の動物交換。
4 月 4 日、公園部から公園局管理部に所属変更（公園局管理部動物園）。

1974（昭和 49）7 月 5 日、日中国交回復を記念した動物交換でタンチョウ、モウコガゼル 2 頭（雄、雌）（日本初）が北京動物園から来園。
8 月 22 日、上海・大阪友好都市提携を記念して上海動物園よりチュウゴクオオカミ 2 頭（雄、雌）（黒変種）、マナヅル 2 羽（雄・雌）来園。

1975（昭和 50）2 月 1 日、開園 60 周年を記念して、サンディエゴ動物園よりシンリンオオカミ受贈。
8 月 1 日、第 1 回サマースクール開催。
10 月 2 日、サンディエゴ動物園よりコヨーテ受贈。
10 月 8 日、シカゴ、リンカーンパーク動物園よりカナダヤマアラシ来園。
11 月 29 日、韓国、昌慶宮動物園よりワシミミズクとチョウセンヤマネコ来園。





- 1976 (昭和 51) 5 月、大阪動物園ボランティアーズが発足。
7 月 20 日、ビルマ (当時)、ラングーン動物園からムツアシガメ、ムチヘビ来園。
- 1977 (昭和 52) 1 月 27 日、バングラデシュ、ダッカ動物園からジャングルキャット来園。
8 月 2 日、モウコガゼルの繁殖に成功 (日本初)。
11 月 2 日、上海市との第 2 次動物交流でベニジュゲイ 4 羽 (雄 2、雌 2) 来園。
- 1978 (昭和 53) 2 月 17 日、ワシミミズクの繁殖に成功。
4 月 16 日、ジャングルキャットの繁殖に成功 (日本初)。
11 月 3 日、上海市との第 3 次動物交流でニホンコウノトリ 2 羽 (雄、雌) 来園。
11 月 4 日、こたりの家が日本宝くじ協会の寄付で完成。
- 1979 (昭和 54) 5 月 5 日、大阪信用金庫様より白雪姫時計台受贈。
6 月 1 日、中川道朗園長退職。後任、橋本一郎園長。
6 月 29 日、オーストラリア、メルボルン動物園からワライカワセミとヤブツカヅクリ来園。
- 1980 (昭和 55) 7 月 25 日、バカの繁殖に成功 (日本初)。
7 月 29 日、アカハシリウキウガモの繁殖に成功 (日本初)。
- 1981 (昭和 56) 3 月 20 日、コウノトリ舎完成。
10 月 28 日、上海市との第 4 次動物交流でチュウゴクオオカミ 2 頭 (雄、雌) (黒変種) 来園。
- 1982 (昭和 57) 7 月 3 日、ニュージーランドのオトロハンガ動物学協会からキーウィ 3 羽来園。
- 1983 (昭和 58) 5 月 31 日、橋本一郎園長退職。後任、土井良彦園長。
10 月 5 日、オーストラリア・ヴィクトリア製造業会議所よりハリモグラ受贈。
10 月 12 日、上海市との第 5 次動物交流でニホンコウノトリ 2 羽 (雄、雌)、フランソワルトン 2 頭 (雄、雌) 来園。
- 1984 (昭和 59) 3 月 28 日、キジ舎完成。
10 月 26 日、オーストラリア・タスマニア州よりタスマニアデビル受贈 (日本初)。
- 1985 (昭和 60) 1 月 15 日、夜行性動物舎、レクチャールームがオープン。
4 月 10 日、開園 70 周年を祝って上海動物園よりコジャコウネコ 2 頭 (雄、雌)、アオミミキジ 2 羽 (雄、雌) 受贈。
10 月 13 日、開園 70 周年記念シンポジウム「動物との共存を図るために」を開催



- 1986 (昭和 61) 4 月 27 日、サル・ヒヒ舎完成 (ヒヒ舎は日本宝くじ協会の寄付)。
- 1987 (昭和 62) 3 月 31 日、東門、駐車場閉鎖。
6 月 3 日、上海市との第 6 次動物交流でニホンコウノトリ、アジアゴールデンキャット、コジャコウネコ来園。
8 月 1 日、天王寺公園と動物園を会場に 11 月 8 日まで開催された天王寺博覧会に合わせて「鳥の楽園」がオープン。
11 月 16 日、ホッキョクグマのユキコがこゆきを出産。(本州以南で初の成功)
- 1988 (昭和 63) 5 月 14 日、ガラス張りのヒョウ舎完成。
- 1989 (平成元) 3 月 31 日、土井良彦園長退職。後任、伊東重朗園長。
5 月 2 日、コアラ館完成。
6 月 1 日、オーストラリア、メルボルン動物園から第 1 陣コアラ 3 頭 (雄 1、雌 2) が来園。
11 月 6 日、レッサーパンダ舎完成。
11 月 6 日、上海市との第 7 次動物交流でレッサーパンダ 2 頭 (雄、雌) クロトキ 4 羽が来園。
- 1990 (平成 2) 2 月 24 日、新世界ゲートを新設し南門を閉鎖する。天王寺公園との組織一体化に伴い、天王寺動物公園事務所となる。
4 月 25 日、オーストラリア、メルボルン動物園から第 2 陣コアラ 3 頭 (雄 1、雌 2) が来園。
4 月 26 日、ガラス張りのオオカミ舎完成。
5 月 24 日、日本のシシオザルの繁殖計画を策定し、国際協力でアメリカのワシントン動物園から雌来園。つづいて 8 月 3 日アメリカのセントルイス動物園から 2 頭 (雄、雌) 来園。
- 1991 (平成 3) 3 月 31 日、伊東重朗園長退職。後任、中山良三郎所長。
7 月 26 日、コアラの繁殖に成功 (当園初)。
10 月 2 日、上海市との第 8 次動物交流でヨウスコウワニ 2 頭、アネハヅル 2 羽が来園。
- 1992 (平成 4) 9 月 8 日、チンパンジー・オランウータン舎が完成。
- 1993 (平成 5) 3 月 24 日、ドイツ・ライプチヒ動物園からメガネグマ (雄) 来園。
5 月 2 日、上海市との第 9 次動物交流でウンビョウが来園。
6 月 11 日、ニホンコウノトリの繁殖に成功 (当園初)。
7 月 16 日、シンガポール動物園からチンパンジーの親子来園。
10 月 14 日、(社) 日本動物園水族館協会の種保存委員会全国拡大会議が大阪で開催され、同協会総裁の秋篠宮文仁親王殿下が天王寺動物園をご視察。

- 1995 (平成 7) 3 月、ZOO21 基本計画案策定。
3 月 23 日、生態的展示の手法を取り入れた爬虫類生態館 (IFAR) がオープン。
3 月 31 日、中山良三郎所長退職。後任、樽本勲所長。



- 4 月 4 日、上海市との第 10 次動物交流でヨウスコウワニ、チュウゴクオオアタマガメ来園。
5 月 15 日、ニシゴリラのゴロ (雄) を千葉市動物園に貸出。ゴリラの飼育が途絶える。
9 月 9 日、開園 80 周年記念式典を大阪国際交流センターで開催。一日園長に柳生博さんと大塚露那さんを任命。
10 月 7 日、開園 80 周年を記念してオーストラリア、メルボルン動物園からコアラ 2 頭 (雄、雌) 来園。
1 月 2 日、ワレンヨロイトカゲ自然繁殖 (日本初)。
2 月 20 日、シンガポール動物園からマレーグマ 2 頭 (雄、雌) 来園。
4 月 26 日、マダガスカルシャコ人工繁殖に成功 (日本初)。
6 月 23 日、タンザニアアカノドシャコ人工繁殖に成功 (日本初)。
9 月 27 日、シンガポール動物園からスナドリネコ 2 頭 (雄、雌) 来園。
10 月 7 日、クロサイのサトミ (雌) をアメリカ、カードウェル動物園に貸出。
10 月 29 日、カラカル 2 頭 (雄、雌) 繁殖 (当園初)。
3 月 31 日、樽本勲所長退職。後任、井坂進所長。
6 月 10 日、上海市との第 11 次動物交流でヨウスコウワニ 4 頭 (雄 4)、コジャコウネコ 2 頭 (雄、雌) 来園。
6 月 28 日、ヒョウモントカゲモドキ自然繁殖 (日本初)。
7 月 3 日、レッサーパンダのテンテン (雄) 誕生 (当園初)。
9 月 23 日、生態的展示の 2 番目の動物舎として、日本初の水中を見ることができカバ舎オープン。
10 月 28 日、フロリダアカハラガメ繁殖 (日本初)。
2 月 12 日、フサオネズミカンガルー (雄) 繁殖確認 (当園初)。
6 月 10 日、ナベヅル (雌) 繁殖。(当園初)
13 日 に 2 羽目 (雌) 繁殖。
10 月 17 日、生態的展示を取り入れたサイ舎オープン。
12 月 2 日、ヒョウモンガメ繁殖 (当園初)。
12 月 20 日、フクロモモンガ繁殖 (当園初)。
2 月 17 日、当園が中心となり日本のシシオザルの繁殖計画を策定しアメリカのウッドランドパーク動物園の協力を得てシシオザル 6 頭 (雌 6) を受け入れ、当園を含む 4 園に配分。
3 月 31 日、井坂進所長退職。後任、中川哲男園長。
9 月 12 日、ニューギニアナガクビガメ 3 頭繁殖 (当園初)。
6 月 16 日、上海市との第 12 次動物交流でアジアゴールデンキャット 2 頭 (雄、雌) 来園。
11 月 11 日、クロサイのサミー (雄) 誕生。

- 2000 (平成 12) 平成 12 年度に、建設局花と緑の推進本部よりゆとりとみどり振興局に所属変更 (ゆとりとみどり振興局天王寺動植物公園事務所)。
2 月 20 日、レクチャールームで行う「獣医さんのお話」を開始。(毎月第 3 日曜定例化)
4 月 22 日、大阪信用金庫様より受贈したクロサイのブロンズ像の贈呈式を開催。
5 月 19 日、アジアゾウのエリ子 (雌) 死亡 (50 年飼育)。
8 月 8 日、ナベヅル 1 羽 (雌) をベルギーのハウカンショウ繁殖保護センターへ贈る。
8 月 25 日、アフリカサバンナゾーン草食動物エリアオープン。

- 2001 (平成 13) 4 月 24 日、秋篠宮文仁親王殿下ご夫妻が来園され、園内をご視察。
12 月 28 日、上海市との第 13 次動物交流でナベヅル (雄) 来園。
- 2002 (平成 14) 4 月 9 日、クロサイのサミー (雄) をイギリスのチェスター動物園へ貸出。
6 月 15 日、カンムリシロムク繁殖 (当園初)。
8 月 17 日、クロエリセイタカシギ繁殖 (当園初)。
9 月 15 日、大阪信用金庫様よりログハウス調の授乳室受贈。
10 月 15 日、ゾウの糞から堆肥をつくる有機性廃棄物高速発酵処理機を設置。
- 2003 (平成 15) 3 月 11 日、(社) 日本動物園水族館協会主催の動物園の教育利用を促進するためのワークショップを開催。
3 月 12 日、宝塚動植物園の閉園にともないホオジロカンムリヅルはじめ 5 種 11 羽来園。
4 月 21 日、22 日、新ゾウ舎完成に伴いアジアゾウ引越し。
6 月 11 日、トムソンガゼル (雄) 繁殖 (当園初)。
ゾウの糞からつくった有機堆肥「エレファント・ダン」の市民配布開始。
7 月 1 日、ナベヅル 1 羽 (雌) をベルギーのハウカンショウ繁殖保護センターへ貸出。
7 月 22 日、ナベヅル 1 羽 (雄) をベルギーのハウカンショウ繁殖保護センターへ貸出。
12 月 8 日、フトアゴヒゲトカゲ来園 (当園初)。
- 2004 (平成 16) 1 月 16 日、新しく完成したアジアの熱帯雨林ゾーン (ゾウ舎) を報道関係者に事前公開。
1 月 31 日、アジアの熱帯雨林ゾーン (ゾウ舎) の完成記念式典を開催。
大阪信用金庫様より受贈した子ゾウのブロンズ像除幕式挙行。
2 月 19 日、上海市との第 14 次動物交流でミゼンザンコウ 2 頭 (雄、雌) 来園。
2 月 24 日、キバラスズガエル自然繁殖 (日本初)。
3 月 31 日、中川哲男園長退職。後任、園田義昭園長。
4 月 25 日、フトアゴヒゲトカゲ繁殖 (当園初)。
5 月 2 日、ホッキョクグマのユキコ (雌) が老衰で死亡。
6 月 14 日、ビルマニシキヘビ 2 頭繁殖 (当園初 15 日、16 日、17 日にもそれぞれ 2 頭、7 頭、2 頭が繁殖)。
6 月 19 日、「飼育係のおしゃべりガイド」を開催 (毎月第 3 土曜定例化)。
6 月 30 日、アイゾメヤドクガエルが繁殖 (当園初)。
7 月 5 日、ベンガルヤマネコ (雄) が福岡市動物園から来園。
7 月 12 日、ブチハイエナが繁殖 (当園初)。
10 月 15 日、ツキノワテリウムが繁殖 (当園初)。
10 月 25 日、大阪国際交流センターにおいて、第 52 回日本動物園水族館協会動物園技術者研究会を開催。
10 月 26 日、秋篠宮文仁親王殿下が来園され、園内をご視察。
12 月、アジアの熱帯雨林ゾーン (ゾウ舎) が市民 ZOO ネットワークのエンリッチメント大賞を受賞。



2005 (平成 17) 1 月 15 日、開園 90 周年を記念して、新たな催しとなる「飼育係のワンポイントガイド」を開始。
3 月 31 日、園田義昭園長退職。後任、宮下実園長。
4 月 14 日、アジアゾウの春子 (雌)、来園 55 周年を祝う会を開催 (以後、恒例となる)。
8 月 21 日、6 月下旬から 7 月 7 日まで募集した「願い事叶えまっせ」で選ばれた方にキリンへの給餌の夢を叶えていただく (以後、恒例となる)。
9 月 19 日、敬老の日になみ、アジアゾウの春子 (雌)、クロサイのサッチャン (雌)、オランウータンのサツキ (雌) に長寿のお祝いとして好物をプレゼント。
9 月 23 日、開園 90 周年記念シンポジウム「動物園が今おもしろい！」を大阪コミュニケーションアート専門学校と共催で大阪厚生年金会館芸術ホールにて開催。
10 月 23 日、開園 90 周年記念イベントとして「大人のための飼育体験」を実施。大人向けの飼育体験は初。
11 月 1 日、市民から懐かしい写真を借りて「思い出の写真展」を新世界町会連合会と共催で 18 日まで開催。明治～昭和 40 年代の天王寺公園や動物園、通天閣などの貴重な写真を展示。

2006 (平成 18) 2 月、タイ王国スリン県と大阪市の青少年交流事業において、スリン県の 13 歳から 18 歳までの青少年 10 名が来園。
3 月 15 日、ホッキョクグマのゴージ (雄) が、ロシアのベルミ動物園から来園。株式会社蓬萊様より受贈。
3 月 17 日、上海市との第 15 次動物交流でチュウゴクオオカミ 2 頭 (雄、雌) が来園。
3 月 30 日、国内で最高齢のアメキリンのサキコ (雌) が老衰で死亡 (27 歳)。
4 月 25 日、ヒツジ、ヤギ、トカラヤギ、ミニブタを旧カモシカ園に新設したヤギ・ヒツジ舎に移動。
6 月 4 日、市民の希望を受け、当園では初めて野外ステージにて結婚披露が行われる。
7 月 16 日、1915 年の開園以来有料入園者が一億人に達する。一億人目のご家族に記念品贈呈セレモニー、キリンとの記念撮影。
7 月 31 日、旧カモシカ園を「ひつじ広場」と命名。
9 月 9 日、アフリカサバンナゾーン肉食動物エリアが完成し、アフリカサバンナが全面オープン。關淳一市長ら出席のもと、オープンセレモニーが行われる。
大阪信用金庫様より受贈した、親子ライオンのブロンズ像の除幕式を開催。
10 月 17 日、クロエリセイタカシギの展示を新しくなったシギ舎で再開。
11 月、「絶滅の危機にある動物展」を初開催。絶滅したニホンアシカを始め、スマトラサイなど多くの絶滅の危機にある動物のはく製や写真を展示 (以後、恒例となる)。
11 月 25 日、夜の動物園ガイドを初開催 (以後、恒例となる)。
11 月 26 日、環境省と共催で、「外来生物について考えよう！「教えて千石先生！ー外来生物編ー」」を開催。(財) 自然環境研究センターの千石正一氏による講演や、飼育係と同センター職員によるガイドツアーを実施。
12 月 3 日、ホッキョクグマのゴージ (雄) に、誕生日のお祝いとしてサケ 2 尾をプレゼント。サケは株式会社蓬萊様より受贈 (以後、恒例となる)。

2007 (平成 19) 5 月 22 ～ 24 日、(社) 日本動物園水族館協会の平成 19 年度通常総会並びに協議会を大阪国際交流センターおよび当園で開催。23 日には (社) 日本動物園水族館協会の総裁である秋篠宮文仁親王殿下が天王寺動物園をご視察。

2008 (平成 20) 3 月 18 日、ビジネスパートナー事業の記者会見でパートナー事業の 7 件を発表。そのなかで関西マルチメディアサービス (株) から提案のあった天王寺動物園の専用のホームページ ZOO × ZAQ が公開。
上海市との第 16 次動物交流で、チュウゴクオオカミ (雌) 来園。
4 月 18 日、(株) ウーマンライフ新聞社から、日本初の動物園からのフリーペーパー「Together」が創刊される。
7 月 3 日、上海市との第 16 次動物交流でヨウスコウワニ 4 頭 (雄 2、雌 2) 来園。
8 月 2 ～ 31 日、初の試みとして通天閣、大阪市立美術館、当園の 3 施設共通入場券を発売。

2009 (平成 21) 2 月 11 日、通天閣観光株式会社様、大阪信用金庫様、阪神高速道路株式会社様、大阪芸術大学様、社団法人大阪市天王寺動物園協会様の協力を得て、アフリカサバンナゾーンのサイ舎の後方に見える阪神高速道路の遮音板にアフリカサバンナの風景画を描くために募金活動を開始。9 月 2 日、国内で最高齢のコアラのハク (雄) が心不全のため死亡 (21 歳 7 カ月)。

2010 (平成 22) 1 月 31 日、カバのナツコ (雌) が老衰で死亡。
3 月 31 日、宮下実園長退職。後任、長瀬健二郎園長。
11 月 7 日、千石正一氏をお迎えて、「カエルやカメの仲間がいなくなる！ Extinction of Herptiles」と題して、絶滅の危機に瀕する爬虫類・両生類の講演会を開催。
12 月 1 日、地下鉄御堂筋線動物園前駅 (新世界側) 北側の地下道に当園の飼育動物を描いたポスターのギャラリーが完成。

2011 (平成 23) 1 月、高病原性鳥インフルエンザが兵庫県伊丹市で検出されたため、防疫体制を強化。「鳥の楽園」を閉鎖 (4 月 6 日まで)。
3 月 2 日、浜松市動物園よりホッキョクグマのバフィン (雌) を借り受け。株式会社蓬萊様が輸送費を後援。
3 月 15 日、天王寺公園と動物園の間に連絡ゲートを開設。天王寺ゲートから公園内を通過して動物園に入れるようになる。
3 月 24 日、上海市との第 17 次動物交流でジャガー (雌) 来園。
12 月 1 日、当園オリジナルゆるキャラ「ゴージくん」がデビュー。
12 月 15 日、あべのキューズモールでのキャンペーンにより受贈したケープハイルックス 3 頭 (雄 1、雌 2) のお披露目式。



2012 (平成 24) 3 月 15 日、白雪姫時計台のリニューアル完成除幕式を開催。大阪信用金庫様の協力により改修。
3 月 31 日、長瀬健二郎園長退職。後任、高橋雅之園長。
4 月 1 日、ゆとりとみどり振興局より建設局に所属変更 (建設局天王寺動物園事務所)。
8 月 11 ～ 15 日、お盆の夜間開園 (午後 7 時まで) 期間中は定例以外のおやつタイム・ごはんタイム、夜行性動物舎ガイド、ゾウの寝室ガイドなどを実施。
9 月 25 日、ボルネオオランウータンのサツキ (雌) が 42 歳で死亡 (オランウータンの飼育が途絶える)。
11 月 23 日、アミメキリンのケニヤ (雄) が 22 歳で死亡 (キリンの展示一時途絶える)。

2013 (平成 25) 4 月 1 日、大阪市外の小中学生の入園料を 200 円とする。
4 月 24 日、姫路セントラルパークからアミメキリンの幸弥 (こうや) (雄) を借り受け。キリンの展示を再開。株式会社マルハン様が輸送費を後援。
12 月 20 日、東京都井の頭自然文化園から、ナベツル (雄) を借り受け。あべのキューズモールでのキャンペーンにより輸送費が集められた。
12 月 25 日、アドベンチャーワールドからムフロンのツウ、テン、カク (いずれも雄) が来園。通天閣観光株式会社様が輸送費を後援。旧バーバリシープ舎で展示。

2014 (平成 26) 1 月 1 日、100 周年に向けてのカウントダウンとして臨時開園。様々なイベントを実施。
1 月 17 日、クロサイのサッチャン (雌) が 41 歳で死亡。生涯に 6 度出産、動物園での血統維持に大きな貢献。
3 月 28 日、上海市との第 18 次動物交流で、アムールトラ (雄) 来園。
3 月 31 日、高橋雅之園長退職。後任、野原賢一郎所長。4 月 1 日、組織改変に伴い、事務所名が天王寺動物園公園事務所に変更。
4 月 16 日、開園 100 周年にむけて、動物園のロゴ・シンボルマークを一新。
6 月 5 日、旧ライオン舎跡に新トラ舎完成。
6 月 18 日、アミメキリンのハルカス (雌) が来園。近畿日本鉄道株式会社様より受贈。
7 月 1 日、牧慎一郎天王寺動物園改革担当部長着任。
7 月 30 日、アジアゾウの春子 (雌) が老衰により死亡。推定 66 歳。
9 月 23 日、アジアゾウの春子を偲ぶ会を開催。

2015 (平成 27) 1 月 1 日、開園 100 周年を記念して臨時開園し、お誕生日会を開催。
3 月 28 日、ホッキョクグマのイッチャン (雌) がロシアのノボシビルスク動物園から来園。株式会社蓬萊様より受贈。
3 月 31 日、野原賢一郎所長転出。
4 月 1 日、牧慎一郎天王寺動物園改革担当部長、園長を兼務。
4 月 16 日、国内最高齢のコアラのミク (雄) が死亡 (23 歳)。
4 月 25 日、「地下鉄まごど どうぶつスタンプラリー」開始 (11 月 11 日まで)。
6 月 14 日、100 周年記念第 4 弾「ホッキョクグマのモモ [6 か月おめでとう！イベント]」開催。
8 月 8 日、100 周年を記念し、期間限定で「ナイト ZOO」を開催 (8 月 16 日まで)。



8 月 10 日、天王寺動物園 100 周年と劇団四季ミュージカル「ライオンキング」1 万回公演を記念し、キャストが来園。
10 月 1 日、天王寺公園エントランスエリア (愛称「てんしば」) がオープン。同時に天王寺動物園の天王寺駅御ゲート「てんしばゲート」がオープン。
10 月 6 日、「ひつじ広場」を「ふれあい広場」にリニューアルし、「テンジクネズミ (モルモット) ふれあいコーナー」がスタート。
10 月 9 日、各日限定約 5,000 名で「プレミアムナイト ZOO」を開催 (10 月 11 日まで)。
11 月 1 日、職員の新ユニフォームお披露目会開催。
11 月 21 日、テレビ大阪制作劇場版映画「天王寺おばあちゃんゾウ 春子最後の夏」公開。

2016 (平成 28) 1 月 23 日、淡路ファームランドから戻ってきたコアラのアークと息子のソラがお披露目。
2 月 29 日、愛媛県立とべ動物園からヒガシクロサイのライ (雄) がブリーディングローン (繁殖のための貸借) で来園しました。
3 月 14 日、第 19 次上海市動物交流によりビューマの雄が上海動物園から来園。
3 月 16 日、コヨーテの幸 (雄) が心肺不全で死亡。これをもって天王寺動物園でのコヨーテの飼育は終了。
3 月 22 日、横浜市立よこはま動物園よりメガネグマのブッベ (雌) とウンビウのショウ (雄) が、横浜市立野毛山動物園よりフサオマキザルのマユゲ (雄) が来園。
3 月 31 日、国内最高齢 (当時) のコアラのアルン (雄、19 歳) が死亡。
4 月 21 日、ジャガーのルース (雌) が双子の雄の赤ちゃんを出産。
8 月 5 日～ 8 月 21 日、大阪 ECO 動物海洋専門学校様の協力を得て「奇奇怪怪！暗闇のサカス～奇蟲の世界～」開催。
9 月 19 日、秋の全国交通安全運動事前キャンペーン開催、ニワトリのマサヒロが 1 日高速隊長に任命される。

2017 (平成 29) 3 月 23 日、第 20 次上海市動物交流によりブチハイエナの雌が上海動物園から来園。
4 月 1 日、年間パスポートの販売開始。メキシコのブアフリカンサファリよりカバ (雄) が来園。
10 月 30 日、横浜市立よこはま動物園よりエランドのミナミ (雌・1 歳) がブリーディングローンで来園。
12 月 1 日、オリジナルフレーム切手「天王寺動物園 103 周年」が大阪市内の天王寺区をはじめる 7 区、108 の郵便局で販売開始される。

2018 (平成 30) 1 月 12 日、ウンビウのショウ (雄 14 歳) が死亡。
1 月 25 日、アジアゾウのラニー博子 (雌) が推定 48 歳で死亡。長年に渡り、天王寺動物園に貢献。
3 月 9 日、「天王寺動物園 101 計画」の行動計画 (アクションプラン) を公表。
3 月 15 日、チュウゴクオオカミのユジン (雌) が 14 歳の誕生日の 1 日前に心タンポナーデで死亡。
3 月 19 日、障がいのある方とご家族・介助者の方に休園日の動物園をゆっくり楽しんでいただくため「ドリームディ・アット・ザ・ズー」を大阪信用金庫様の協賛、大阪市社会福祉協議会、大阪市天王寺区社会福祉協議会、大阪市阿倍野区社会福祉協議会のご協力で開催。
12 月 3 日、アドベンチャーワールド (和歌山県) にブリーディングローンで貸し出していたホッキョクグマのゴージ (雄・12 歳) が帰園。





2019 (平成 31) 3 月 21 日、春のナイト ZOO「SPRING NIGHT ZOO」を開催。

7 月 23 日、第 2 次上海市動物交流により雄のジャガーが上海動物園から来園。
9 月 11 日、グラントシマウマのヒデオシ (雄・27 歳) がエランドの雄と闘争し角で腹部を負傷したことが原因で死亡。

9 月 27 日、カリフォルニアアシカのキュッキュが行方不明になり、前日の池掃除の際に排水口から脱出したと思われるので下水施設の搜索。
10 月 1 日に発見。

10 月 10 日、当園職員が同行し、コアラのアーキがイギリスのロングリートサファリパークへ出園。

11 月 22 日、てんしばゲート横の新エリア「てんしば i:na(イーナ)」が近鉄不動産株式会社との協定による事業として開業。

12 月 17 日、公益社団法人日本動物園水族館協会の動物園技術者研究会を当園で開催園となり開催。ご臨席のため来阪された秋篠宮皇嗣殿下が爬虫類生態館 (アイファア) やカバ舎などをご視察される。

12 月 28 日、ビューマのピコ (雌・17 歳) が死亡。

2020 (令和 2) 2 月 17 日、天王寺動物園 101 計画アクションプラン評価会議を開催。

2 月 21 日、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、夜行性動物舎、コアラ館、は虫類生態館 (アイファア) を当面、閉鎖。各種イベントも開催中止。

2 月 27 日、3 月 31 日をもって閉園するみさき公園からマアラ 3 頭、ワシミミズク 1 羽、グリーンイグアナ 1 頭が来園。

3 月 3 日、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休園 (～3 月 23 日)。7 日から近畿圏の動物園水族館が始めたのを皮切りに、「#休園中の動物園水族館」という共通ハッシュタグをつけ SNS で情報配信を開始。

3 月 26 日、フランスワルトンのココア (雌・4 歳) が横浜市立よこはま動物園 (ズーラシア) からブリーディングローンで来園。

4 月 19 日、日本動物園水族館協会が推進し、毎年 4 月 19 日に全国の動物園や水族館でほぼ同時開催している「飼育の日」イベントが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止。天王寺動物園では代わりに YouTube によるライブ配信リレーを実施。

4 月 7 日、大阪府内に緊急事態宣言が発令されたことを受け、4 月 8 日から当面の間休園 (～5 月 25 日)。休園中はスタッフブログが動画で動物たちの様子を多数配信。

5 月 30 日、営業再開後最初の週末で多くの来園客があったため、新型コロナウイルス感染予防の観点から、入園制限を実施。以降混雑状況についてスタッフブログで発信されるようになる (土日祝事前予約制導入まで)。

6 月 22 日、3 月 31 日をもって閉園したみさき公園からニホンジカ 5 頭 (雄 2、雌 3) が来園。
6 月 28 日、毎日放送「情熱大陸」で天王寺動物園の休園中の様子について特集。

7 月 8 日、例年夏休みに開催しているサマースクールが新型コロナウイルス感染の拡大防止などを踏まえて中止。代わりに「天王寺動物園教室のオンライン」を 8 月 8 日から 10 日まで実施。



2021 (令和 3)

8 月 8 日～、長居植物園主催、天王寺動物園の協力で、「動物と植物のつながりクイズスタンプラリー」を実施。

9 月 1 日、利便性の向上に加え、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、インターネットによるチケット販売及び入園予約 (WEB チケット) を開始。土日祝の入園は事前予約制となる。

9 月 30 日、オウサマペンギン 2 羽がブリーディングローンで台北市立動物園へ出園。

11 月 25 日、ホッキョクグマのイッチャンが 2 頭の赤ちゃんを出産 (内 1 頭は後に死亡)。

3 月 9 日、新施設「TENNOJI ZOOMUSEUM」(てんのうじズーミュージアム)、「FooZoo」(フーズー)、「GooZoo」(グーズー) 等がオープン。施設内の多目的ホールの机やイス等の備品一式と、休憩棟に設けられた授乳室の設備一式を大阪信用金庫様の創業 100 周年記念事業の一環として寄贈していただき、ホールは「だいしんワクワクホール」と名付けられた。

3 月 23 日、ホッキョクグマのイッチャン親子一般公開。赤ちゃんは父親であるゴゴゴと母親であるイッチャンをご寄贈いただいた、株式会社逢萊様のご提案でホウちゃんと命名。

3 月 31 日、牧慎一郎園長退職。

4 月 1 日、地方独立行政法人天王寺動物園発足。動物福祉を第一の柱に新たなスタートを切る。山中惇理事専任就任。向井猛園長就任。『天王寺動物園 倫理と福祉の基準』策定。

4 月 24 日、大阪府域に新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく「緊急事態宣言」が発令され、臨時休園 (～6 月 21 日)。臨時休園中のゴールデンウィークをライブ配信ウィークとし、毎日公式 YouTube チャンネルからライブ配信を実施。

6 月 22 日、「緊急事態宣言」の解除をうけ、感染症対策を講じつつ再開。

8 月 13 日、感染症対策を講じつつ、夏のナイト ZOO 開催 (8 月 13 日～15 日、21 日、22 日)。

9 月、「Amazon はしいものリスト」を公開。
10 月 4 日、天王寺動物園とアークファンプロジェクトの主催で、コアラの世界を五感で楽しむ企画展「コアラライブラリー」を開催。

10 月 17 日、ニホンシガメの展示を開始。
10 月 29 日、ミナガヤギのミユキが死亡。

10 月 31 日、フタバコブラダのジャックが死亡。
11 月 7 日、「カバのテツオ君と歯磨き教室&クイズラリー」を大阪府視界様、毎日新聞社の主催、デンタルプロ株式会社様の協賛により開催。

11 月 17 日、富田林市の小学生の皆さんなどが栽培した「奇跡の復興米」の稲藁を、富田林市「岩手県大館町奇跡の復興米」栽培委員会様よりご支援頂く。

11 月 21 日、一般社団法人こども感動体験プロジェクト様の主催で「みんなあつまれ! かみしばいがいっぱい! 見て! 作って! 演じてみよう! ～」を実施。



11 月 23 日、鳥の楽園でクロトキが仲間入り。同日、「明治安田生命 Presents 明治安田生命×てんのうじどうぶつえん×てんしば みんなの健スタンプラリー」を実施。

12 月 11 日、「SDGs について動物園で考える～生き物みんなが生きていける持続可能な環境～」を、国連環境計画国際環境技術センター様、大阪市環境局との共催で実施。

12 月 26 日、大阪暁光高等学校の学生が、天王寺動物園企画展「とらてん」に合わせて「BIG CAT から SDGs 多様展」を開催。

2022 (令和 4) 1 月 1 日、天王寺動物園が所有している非公認 2 点の 3D モデルを、一般社団法人路上博物館との初コラボレーション企画として公開。

1 月 25 日、大阪市立聖和小学校と大阪市立桃洋小学校より新型コロナウイルス感染症の影響で給食用の野菜が破棄されることから水菜・ネギ・玉ねぎを頂く。

2 月 13 日、大牟田市動物園主催のライブ配信「たとえばこんなハズバンダリー～福ちゃん～」を実施。

2 月 15 日、1 月 14 日～30 日まで募集した「鳥の楽園観覧通路に展示する写真展」で 300 枚を超える応募を頂き掲示する。

3 月 28 日、「動物園がもっと好きになる。水辺の生物たちと再会できる場所づくりを」と題して、水辺の生物たちが生き生きと過ごす姿を見て天王寺動物園を楽しんでもらうため、爬虫類生態館 (アイファア) の日本の自然エリアの改修工費を募るクラウドファンディングを 5 月 31 日まで行う。

4 月 18 日、二ホンコウノトリのリコが死亡。
4 月 27 日、新施設「ふれんどしっぽガーデン」のオープンを記念し、松井一郎大阪市長、近鉄不動産社長倉橋孝書様にご出席いただき記念式典を開催。

5 月 21 日、「世界のカワウソの日」の一環として、高知県立のいち動物公園、海遊館とともに「カワウソの未来のために～二ホンカワウソに思いをよせて～」を WEB でイベントを開催。

6 月 30 日、天王寺動物園のデータも使った研究が米科学誌「サイエンス」に掲載される。
7 月 7 日、JR 天王寺駅 中央改札付近のきつぷうりば (みどりの窓口) 横に、天王寺駅と天王寺動物園が連携した「お知らせコーナー」が設置される。

8 月 5 日、イオンモール大日で天王寺動物園パネル展を開催。
8 月 20 日、カルフォルニアアシカのミークが亡くなる。

9 月 3 日、「動物の行動と管理学会」2022 年度大会において、大阪大学との共同研究の「飼育ホッキョクグマ母子における産室を出てからの子が 12 カ月齢を迎えるまでの相互交渉」が優秀発表賞を受賞。

9 月 23 日、「動物感謝祭」を有観客で実施。



10 月 15 日、ミナガヤギのメイが亡くなる。
10 月 22 日、ジャガーのルースが亡くなる。
11 月 13 日、京都大学野生動物研究センター様との共同研究 (飼育下アジアゾウにおける DNA メチル化を指標とした年齢推定) が国際学会「第 15 回 Asian Society of Conservation Medicine」において、優秀賞 (ポスター) を受賞。

12 月 11 日、ホッキョクグマの「イッチャン 9 歳・ホウちゃん 2 歳の誕生日イベント」および「イッチャンの壮行会」を開催。

2023 (令和 5) 1 月 1 日、2022 年生まれタンチョウの成長記録をブログで配信。

2 月 4 日、チュウゴクオオカミの鼠径ヘルニア治療についての論文が掲載。

2 月 9 日、くるる (雄) とココア (雌) の間にフランスワルトンの赤ちゃんが誕生。

3 月 27 日、クラウドファンディングで多くの方にご支援いただき、アイファア日本の自然エリアをリニューアルオープン。

4 月 26 日、ベンギンパーク&アシカワーフがオープン。
6 月 9 日、J.COM「てんのうじどうぶつえんの ZOO っとテレビ」に協賛いただいているリハビリデイらくだ様から、番組への協賛金の一部を活用して、10 点のテンジクネズミが仲間入り。

8 月 15 日～8 月 18 日、アイファア (爬虫類生態館) で飼育しているヨウスコウワニが孵化。ヨウスコウワニの繁殖については札幌市円山動物園に次いで国内 2 園目、14 年ぶりの繁殖。

8 月 23 日、8 月 25 日、ベニロフフラミンゴのヒナ誕生。
9 月 20 日、第 1 期リニューアル整備事業に伴い、日本庭園が閉園。

11 月 17 日、静岡県立日本平動物園からやってきたジャガーの小春 (雌) を一般公開。
11 月 30 日、沖縄から来園したホオジロカンムリヅル (雌) の名前を発表。名前は「ネオ」。

11 月 21 日、鳥のセカイがオープン。「鳥の適応進化とその不思議に触れることのできる施設」がコンセプト。
12 月 5 日、第 1 期リニューアル整備事業に伴い、旧ペンギン舎がの観覧終了。

12 月 23 日～、2025 年の 110 周年へのスタートダッシュとして、1915 年開園から現在にいたるまでの歴史を 109 枚の写真でたどる天王寺動物園の歴史写真展を開催。

12 月 26 日、仮チンパンジー会オープン。
2024 (令和 6) 1 月 24 日、令和 6 年能登半島地震の被災館に対する募金箱を「てんしばゲート」と「新世界ゲート」に設置。

2 月 5 日、のとしま水族館からカリフォルニアアシカのユウキ (雌) を受け入れ。
4 月 1 日、大阪 ECO 動物海洋専門学校との連携協定を強化し、ふれんどしっぽガーデンのさらなる発展を目指す。

7 月 1 日～8 月 31 日、夏休み特別企画 シェラトン都ホテル大阪と天王寺動物園とのコラボ商品「アフタヌーンティー」を限定販売

7 月 18 日、メタバース「バーチャルあべのハルカス」内に、「バーチャル天王寺動物園」がオープン。

8 月 5 日、キウウィのブクヌイ (雌) が死亡。ブクヌイの死亡により、日本で飼育しているキウウィはいなくなつた。

8 月 24 日、9 月 14 日、2025 年大阪・関西万博公式キャラクター『ミャクミャク』がナイト ZOO に登場。

9 月 13 日、開園記念日 110 日前より毎日行うカウントダウンで使用するモニュメントのお披露目会を開催。

